

閑上地区MIZBEステーションの施設利用・機能

～ 自治体と連携して平常時の利活用（賑わいづくり等）を推進 ～

『洪水・災害時』は、水防活動や災害発生時の復旧活動を迅速に行うための拠点として。
『平常時』には、地域の交流拠点として地域住民の憩いの場、防災学習の場として活用可能な施設。

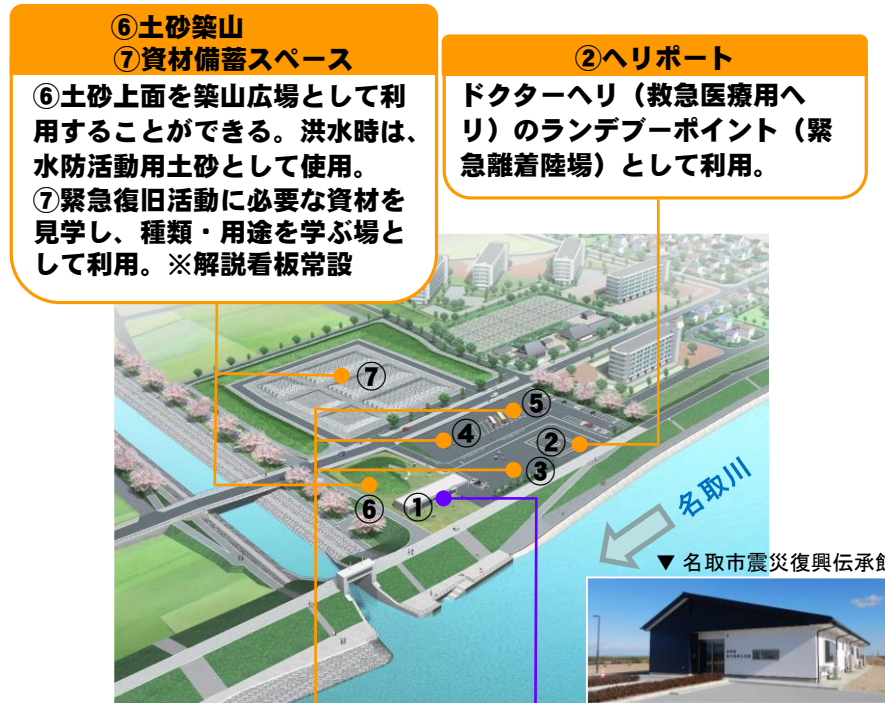
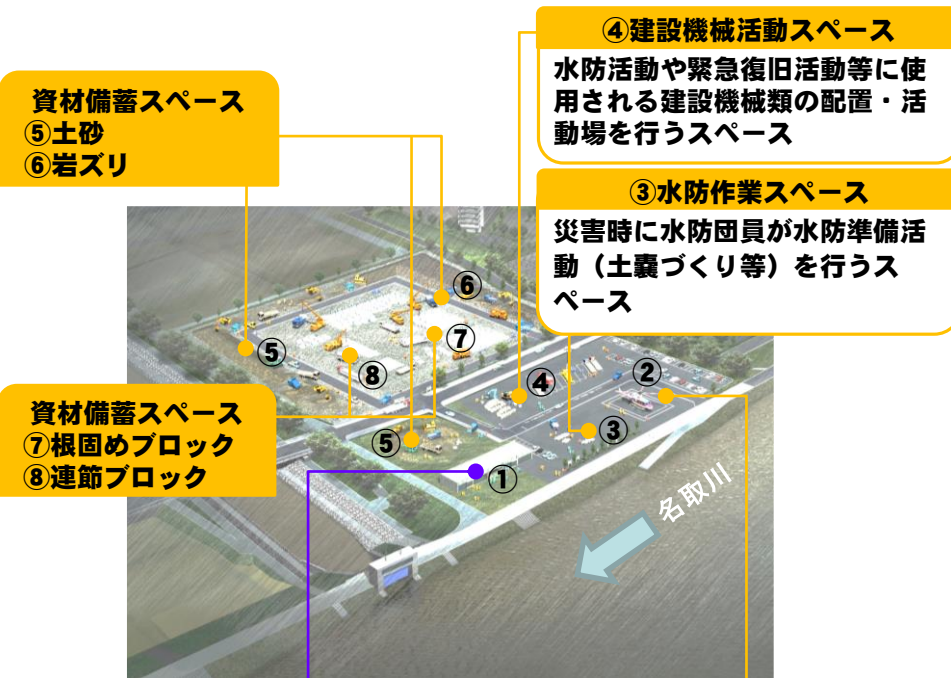
『名取市震災復興伝承館』（水防センター）は、名取川閑上地区MIZBEステーションの敷地内に、東日本大震災の記憶や教訓を後世に伝承し、震災を風化させることなく、危機意識や防災意識を醸成する拠点施設として名取市が整備。

【洪水・災害時】施設利用のイメージ

水防活動や災害発生時の復旧活動に迅速に対応できる**防災拠点として利用**します。（備蓄資材は両側エリアに集約）

【平常時】施設利用のイメージ

川に関する**学習の場、情報の発信基地**として利用するとともに、**地域の交流・憩いの場**として活用できます。（北側エリアは多目的に活用）



①水防センター（名取市）
水防資材を備蓄する水防倉庫、水防活動の現場指令室や、水防団員の待機および休憩室等をもつ施設

②ヘリポート
周辺道路の冠水時及び人や物資の緊急輸送に対応するヘリコプターの離発着に必要なスペース

③水防作業スペース
④建設機械活動スペース ⑤駐車場
平常時に多目的広場（イベント等）として、一体的に活用できる。また、水防活動の訓練等にも利用。

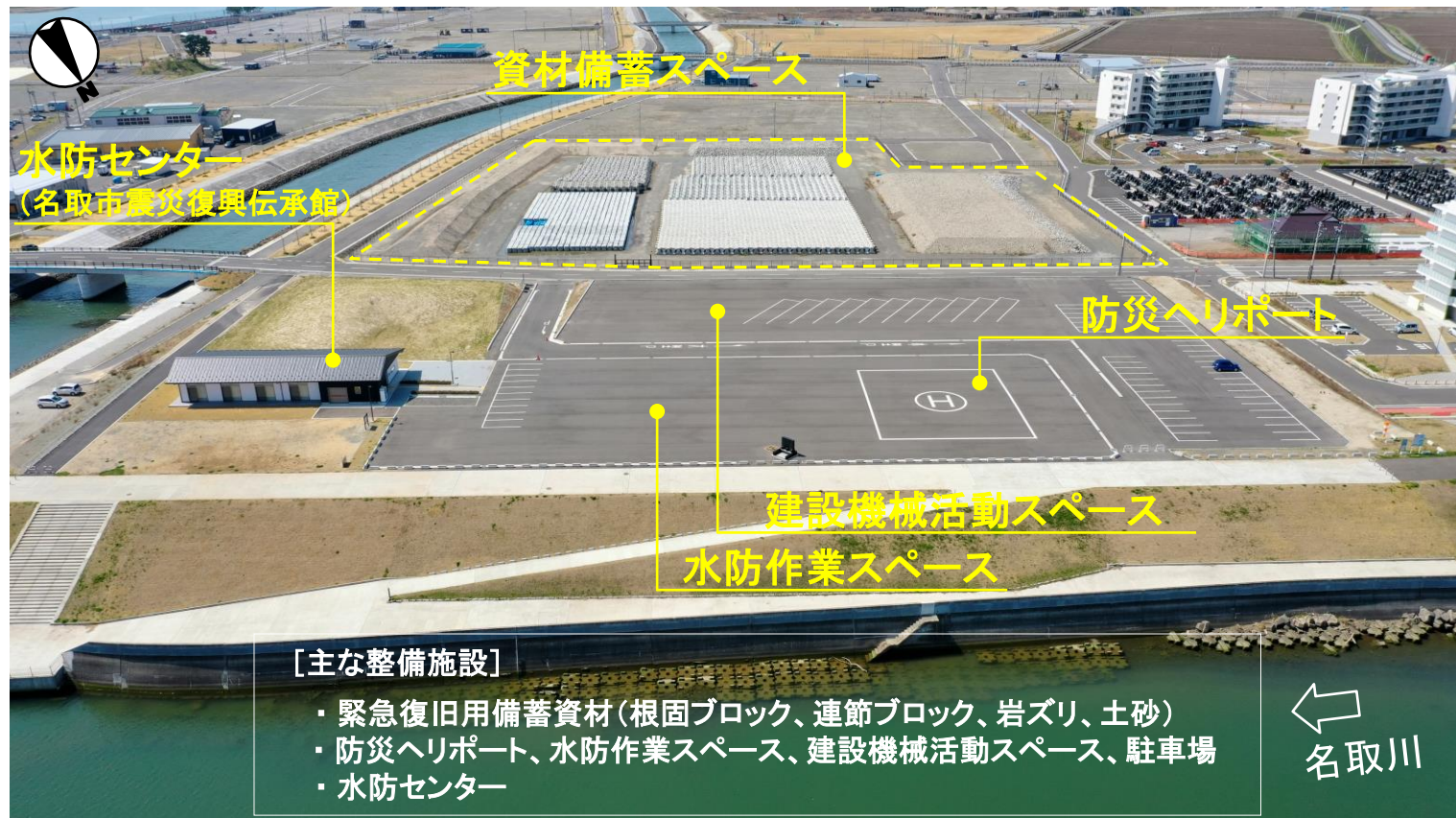
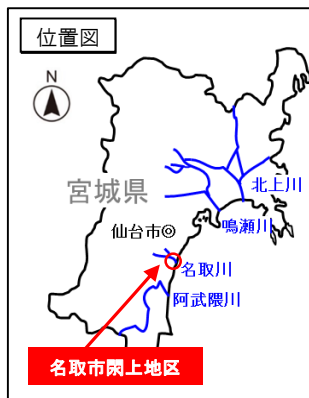
①水防センター（名取市）
防災学習や地域交流活動の拠点として利用。東日本大震災による被災状況及び復興への歩みのほか、自然災害や防災に関する情報を提供する伝承施設。

名取川関上地区MIZBEステーション

～ 地域の災害に対する備えを強化し、安心につながる防災活動の拠点整備を支援 ～

- 関上地区MIZBEステーションは、洪水・災害時、迅速に水防活動及び緊急復旧活動を行う拠点として、名取市と国土交通省が連携を図り整備しました。（令和3年3月完成）
- 災害時の迅速な復旧活動の要・拠点となるとともに、平常時は地域の交流・憩いの場として活用され、新たな賑わいを創出します。

▼ 名取川関上地区MIZBEステーションの整備内容



施設概要

- 【完成年度】
令和2年度
- 【敷地面積】
約 38,000m²
- 【連携施設】
かわまちづくり施設
震災復興伝承館
- 【連携主体】
名取市

【主な整備施設】

- ・ 緊急復旧用備蓄資材（根固ブロック、連節ブロック、岩ズリ、土砂）
- ・ 防災ヘリポート、水防作業スペース、建設機械活動スペース、駐車場
- ・ 水防センター

※備蓄資材は南側エリアに集約。水防センター、水防活動等のスペースは北側のエリアに集約し、作業性と平常時の利活用を考慮した施設配置。

閉上地区MIZBEステーションの活用

～ 河川防災ステーションを新たな賑わいの場、親しまれる空間に～

■MIZBEステーションは、平常時においても利活用のポテンシャルを有しており、自治体や地域住民、民間事業者等の多様な主体による施設の利活用が今後、期待されます。
主な利用形態は以下のとおり。

※下記掲載写真は活動イメージです。

レクリエーション

防災ステーションを平常時は、地域の多目的スペース(イベント会場・運動広場、駐車場等)として活用し、市民の健康増進等の場として役立てる。



観光促進

防災ステーション周辺に近接する観光関連施設や、かわまちづくり施設との連携を図り、地域の魅力を観光客に発信する施設として活用。



★交流人口の拡大
★賑わいの創出
★防災に対する理解浸透

市民の交流拠点

名取市震災復興伝承館(水防センター)内にコミュニティースペース、展示室、会議室等を配置し、市民の交流拠点(講座・教室・研修等)として活用。



防災学習

防災学習・教育(防災情報パネルの設置等 ※名取市震災復興伝承館内)や、防災訓練・講習会(水防技術・水質事故対応等)、見学会(災害対策車両等)の開催などにより、地域住民等の防災意識向上を図る拠点として活用。

